

## 事後評価シート

調査研究課題名	日本企業の中国進出及び中国における物流展開に関するケーススタディ調査
担当者	前主任研究官 河津 裕 前研究官 小林 隆之 研究官 島 広明
①当初目標と目標達成度	<p>多くの日系荷主、物流事業者が進出しているながら、体系的な情報の収集・整理が行われていない、中国国内における物流に関する現状について、中国における物流を中心とした事業活動や物流サービスの質を始めとする実情等を把握し、分析を行った。その結果、中国物流における現場の実情、物流展開上のリスク及びそのリスクに対する対処（回避、解決）方策を始めとする日系物流事業者の実情と課題、展開可能性を明らかにすることができた。従って、当初の目標を達成したと考える。</p>
②調査研究内容の妥当性	<p>本研究では、既存文献等の精査に基づき、中国において特徴的な物流を展開していると考えられる日系の物流事業者、商社、荷主に対するヒアリング調査を実施した。そして、各社から得られた課題・問題点を比較・分析することで、中国物流における現状を明らかにし、日系物流事業者の実情と課題、展開可能性を検討することができた。</p>
③調査研究の仕組みの妥当性	<p>本研究では、研究精度の向上を期するため、中国における物流分野の3名の有識者（大矢昌浩氏（ライノス・パブリケーションズ 編集発行人）、姫田正規氏（山九株式会社 ロジスティクス・ソリューション事業本部 副本部長兼中国事業部長 執行役員）、草間隆氏（日本通運株式会社 海外企画部 次長））から構成されるアドバイザーグループを設置し、アドバイザーグループ会議において、的確な意見・示唆を受けながら調査研究を進めることができた。</p>
④成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページや関係箇所等へ広く公表する。関係者間の情報の共有、リスクマネジメントの向上を図るために活用されることが期待される。</p>
⑤その他	<p>PRI Review 第29号（2008年夏）に掲載。</p>
意見	